

市大病院情報誌



そよ風

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています



Contents

2016年10月
第27号

- ▶ 秋から冬にも注意！膀胱炎
- ▶ 悪性黒色腫の新規治療薬
- ▶ てんかんの診断におけるビデオ脳波モニタリングの役割について
- ▶ マーブルフェスタに参加しました
- ▶ 「HCTC」造血細胞移植コーディネーターって？
- ▶ 「気管支サーモプラスティ（BT）」を開始しました
- ▶ 認定看護師の活動について



診療科紹介 神経内科

秋から冬にも注意！膀胱炎



みなさん、こんにちは。泌尿器科・女性泌尿器外来担当の二宮典子です。夏の暑さもすっかり過ぎて、過ごしやすい毎日になりましたね。でも、実はこんな時期にも身近な病気「膀胱炎」には要注意なんです。

「膀胱炎」。聞いたことはあるけれど、よくご存じない方もいらっしゃるかと思います。膀胱炎は女性の3人に1人はかかると言われる病気です。主に、大腸に住んでいる菌（大腸菌や腸球菌）などが、無菌であるはずの膀胱に感染を起し、排尿のトラブルを起こします。代表的な症状は尿の時の痛み、特に排尿の最後が痛むのが特徴です。また、目でわかるくらいの尿の濁りや、血尿がでることもあります。炎症のために、尿が近くなるのも特徴です。一般的には治療は抗生剤の内服を行います。

秋から冬に膀胱炎にかかる人の特徴として、夏の疲れが残っている人、朝晩の冷え込みで睡眠中に身体を冷やしすぎてしまう人、便秘がちで下剤を頻用してしまう人などが挙げられます。排尿の違和感などがあれば自己判断せずに病院を早目に受診することも大事です。しっかりと体調を整え、膀胱炎知らずの生活を送りましょうね！

悪性黒色腫の新規治療薬



悪性黒色腫は悪性度が高い皮膚腫瘍として知られていますが、早期発見し、早期に手術で病変を切除することで高い治癒率が見込めます。一方、体の他の部分に腫瘍が転移し手術では治せない状態の場合、薬物療法（抗がん剤治療）が必要になります。

昨年、免疫に働きかけて効果を発揮する、悪性黒色腫のおくすりについてご紹介しました。その後、新たな悪性黒色腫の治療薬として、分子標的薬が適応になりました。分子標的薬とは、癌がもつ特定の分子に作用する薬のことです。悪性黒色腫の中には、BRAF（ビーラフ）という遺伝子の異常が原因となっているものがあります。このBRAFという分子を阻害することで、腫瘍の増殖を抑制できることが分かりました。

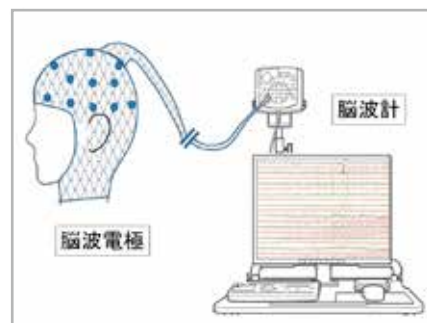
国内では、BRAF遺伝子変異がある悪性黒色腫は全体の30%ほどと言われています。遺伝子の異常がある患者さんにしか使用できない薬ですが、選択肢が増えたことで、少しでも多くの患者さんの治療に役立てたいと考えています。現在、世界的にも悪性黒色腫の治療薬の開発が注目されており、今後も新薬の登場が期待されています。

てんかんの診断における ビデオ脳波モニタリングの役割について

てんかんの診断には、発作型の問診、MRIなどの画像検査、PETやSPECTなどの核医学検査、間欠期脳波(発作が起こっていない時間帯の脳波)、神経心理検査など様々です。しかしこれらの検査では、てんかんの焦点(発作の起源部位)が不明である場合や、そもそも本当にてんかんなのか否かの診断すらできない場合があります。また薬剤や手術の治療効果の判定も発作の回数を問診するだけでは判断しにくい場合があります。

これらの場合に、長時間ビデオ脳波モニタリング検査は非常に有用です。本検査でてんかんの焦点が明らかになった場合には、そのてんかんに応じた内科的治療あるいは外科的治療が計画できる事となります。また、てんかんか否かの診断目的に本検査を行い、てんかんではないと判断された場合には、てんかんの内服薬を中止することができます。治療効果判定の目的で本検査を行った場合には、治療方針の再考を行うための重要な所見となる場合もあります。

当院では、成人は12階東病棟の1202号室、小児の検査では17階西病棟の各病室にて本検査を行っています。この検査では20個程度の脳波電極を頭皮に貼付、あるいは帽子型の脳波電極を装着した状態で長時間の脳波計測を行います。また、検査中はビデオで行動を記録します。検査中は病室周辺のみ活動が制限される欠点がありますが、先述のように他の検査では得られない情報が得られる可能性のある重要な位置づけの検査となっています。本検査をお考えの方は、担当医または脳神経外科外来、小児科外来までご相談ください。



「マーブルフェスタ」に参加しました

中央材料部では、入院中の患者様方の気分転換になればと、平成28年7月29日に病院5階講堂で開催された院内の夏祭り「マーブルフェスタ」に参加させていただきました。

何も芸のない私たちは、体操と余興としてパフュームのFLASHという曲にあわせてダンスパフォーマンスを行いました。約1か月前から、業務終了後に練習を重ねてきま



した。当日は、患者様や来場者の方々の前に立ちとても緊張しましたが、会場の皆様と一緒に体操を行っていただき、喜ばれている顔を拝見することができて、本当に嬉しかったです。患者様方に私たちがパワーを頂きました。頑張って良かったです。有難うございました。

文責 中央材料部師長 山本 千恵





「HCTC」造血細胞移植コーディネーターって？

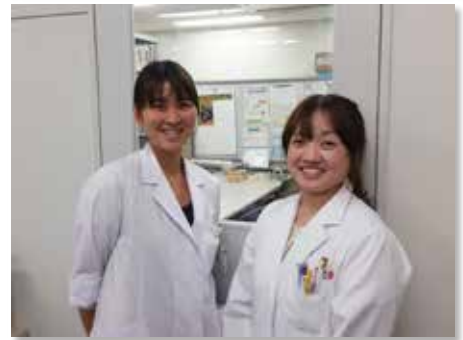
私たちは血液内科・造血細胞移植科で造血幹細胞移植に携わるコーディネーターです。造血幹細胞移植は白血病などの病気で抗がん剤治療だけでは治りにくいと思われるときに検討される治療法で、健康なドナーからいただいた血の元になる造血幹細胞を患者に輸注することでドナーの血が患者の体の中の悪い細胞を攻撃する力を使った治療です。

私たちHCTCは専門的な知識を有し、患者様が自分らしい治療選択をできるように家族全体を支援しています。移植には健康なドナーが必要であるため、ドナーへ倫理的な配慮を行いながら、血縁や骨髄バンク・臍帯血バンクなどから適切なドナーを探し、ドナーに対し説明や相談支援・連絡調整などを行っています。また造血幹細胞移植はチーム医療が必要であり、各部署と情報共有や連絡調整を行なっています。

HCTCは日本造血細胞移植学会で認定制度があり、当院は大阪で初めてHCTCを設置した施設で認定HCTCがいます。

(2016年5月時点：認定HCTCは全国23名)

2016年7月よりHCTC・医師・看護師等で造血幹細胞移植地域支援連携センターを設置し地域医療連携や患者さんからの相談を受ける窓口も作りました。移植に関するご相談があればお気軽に声をかけてください。



「気管支サーモプラスチック (BT)」を開始しました



吸入ステロイド治療の普及により多くの気管支喘息患者さんは良好なコントロールが得られるようになっていますが、十分な薬剤治療にもかかわらず、良好なコントロールが得られない重症喘息患者さんがいらっしゃいます。このたび当院では重症喘息患者の喘息症状の緩和を目的として気管支鏡下に行う気管支サーモプラスチック (BT) を開始しました。

BTは、高用量の吸入ステロイド薬や長時間作用型 β 2刺激薬でコントロールできない、18歳以上の喘息患者を対象とし、高周波エネルギーを気道壁へ通電加熱することで肥厚した気道平滑筋を減少、気道平滑筋による気道の収縮能力を抑え、喘息症状の緩和をもたらします。治療の可否につきましては、呼吸器専門医、アレルギー専門医、気管支鏡専門医の判断が必要であり、実際に治療が受けられるかどうかは医師にご相談下さい。なお、当院は府下大阪市以北で唯一の実施医療機関です。

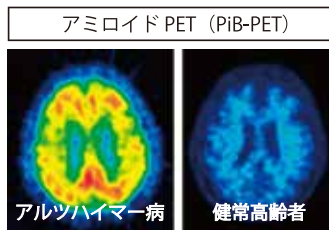
(2016年9月現在)

シリーズ **診 療 科 紹 介**

神経内科

認知症は早期発見、早期治療が重要

認知症の最大のリスクは加齢です。85歳以上ではおよそ3人に1人、90歳以上では2人に1人の割合で認知症が認められ、2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になると予測されています。現時点では認知症の根本的な治療法はありませんが、早期発見、早期介入、治療を行うことにより症状の進行を穏やかにし、精神症状を抑えることができます。当院神経内科は大阪市南エリアの開業医の先生方から認知症の診断や治療方針の相談をお受けする、認知症疾患医療センターとなっています。また、アルツハイマー病の脳に蓄積するアミロイド蛋白やタウ蛋白をPETで画像化するPiB-PET、PBB3-PETなどの最先端の認知症画像研究を行っています。2016年秋からは当院でAMEDプレクリニカルアルツハイマー病の研究が始まります。これは認知機能が正常な高齢ボランティアや軽い物忘れがある認知症ではない方を対象として画像検査や心理検査などを行う、全国多施設共同研究です。このように私たちは認知症の発症原因の究明や治療法の開発に一筋の光明が差すことを願いつつ日々の診察や研究を行っています。（文責：安宅）



シリーズ **第3回**

～認定看護師の活動について～

当院では、がんに関する専門的な知識と視点を持つ認定看護師・専門看護師が協力しながら対応・活動しています。

今回の号では感染管理認定看護師をご紹介します

チームで取り組む院内感染対策！

感染管理認定看護師は、病院を利用する患者さま・ご家族・訪問者はもちろん、現場で働く全ての人を感染源から守るために、医師、薬剤師、臨床検査技師など他職種と協力しながらチームで感染対策に取り組んでいます。

感染症が発生した場合、原因である病原体を臨床検査技師が医師、看護師、薬剤師に報告し、医師はその治療が適切に行われているか、薬剤師は治療に使用する抗菌薬の投与量が適切か、副作用の出現はないかなど、それぞれ確認しており、認定看護師は現場のスタッフが感染症を拡大させないような対策が実施できているかを評価し、様々な角度から感染症に対する治療・対策を行っています。

感染は感染管理認定看護師や医療従事者だけでは防止することができません。患者さまやご家族などすべての方が参加することが大切です。患者さまご自身にも「咳エチケット」「手洗い」「感染症状があるときには医療者へ申し出る」など注意いただきたいことがありますのでご協力お願いします。

感染管理認定看護師 藤田明子 岡田恵代 野々瀬由佳



認定看護師とは、公益社団法人日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。
※公益社団法人日本看護協会ホームページから引用 <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn>

発行／大阪市立大学医学部附属病院

<http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>

所在地：〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
電話：(06)6645-2121 (代表)

初診受付時間：午前9時～午前10時30分
休診日：土・日・祝日、12月29日～1月3日